

地区別村々石高一覧

豊臣秀吉によって全国で検地が行われ、村名、村々の田畑・屋敷などの総面積と、米の生産高と石高（米1石は約150kg）で表しました。この村々の石高によって年貢の基準が決められました。この石高を記録している帳面を郷帳（ごうちょう）といいます。

この郷帳は、慶長・正保・元禄・天保期と4度作られました。時代によって枝村の独立、新田の開発などで、石高に違いがみられる村もあります。

（『大野市史地区編』より）

大野地区

単位：石

村名	正保郷帳	元禄郷帳	天保郷帳
大野町	5,087.8730	4,492.6310	5,205.6445
（大野町枝郷野口村）		193.6630	
（" 金塚村）		72.5125	
（" 篠座村）		272.0225	
（" 清瀧村）		47.4910	
（" 西方寺村）		9.5530	
計	5,087.8730	5,087.8730	5,205.6445

（野口村：市図書館のあたり／金塚村：天神町天満宮神社前あたり／西方寺村：清瀧の砂山のあたり）

下庄地区

単位：石

村名	正保郷帳	元禄郷帳	天保郷帳
中挟村	642.6300	642.6300	643.2450
菖蒲池村	907.8100	907.8100	910.9913
中荒井村	866.3790	866.3790	867.0540
友江村	549.6000	549.6000	550.8700
中保村	493.3600	493.3600	512.3376
堂本村	389.0000	389.0000	389.5987
横枕村	631.1400	631.1400	788.1597
新在家村	572.2100	572.2100	579.8618
中津川村	730.2000	730.2000	824.2550
小矢戸村	980.5930	980.5930	978.2000
太田村	402.9500	402.9500	405.7750
庄林村	1,204.2400	970.4074	1,001.7129
西市村	-	233.8326	248.9586
中野村	1,487.5960	1,487.5960	1,785.4984
西大月村	279.6700	279.7600	195.5430
東大月村	214.8500	214.8500	194.9360
大矢戸村	358.6430	358.6430	293.1670
計	10,710.8710	10,710.9610	11,170.1640

乾側地区

単位：石

村名	正保郷帳	元禄郷帳	天保郷帳
矢 村	1,111.2280	1,111.2280	1,117.4035
上 大 門 村	658.0350	768.7350	783.2070
下 大 門 村	874.8730	764.1730	764.1730
尾 永 見 村	809.7000	809.7000	846.7365
坂 戸 村	231.2140	231.2140	231.2140
犬 山 村	326.5260	326.5260	326.5260
下 丁 村	822.3020	822.3020	822.7020
中 丁 村	715.7130	715.7130	715.9206
上 丁 村	863.2560	863.2560	863.2560
計	6,412.8470	6,412.8470	6,471.1386

小山地区

単位：石

村名	正保郷帳	元禄郷帳	天保郷帳
新 庄 村	416.3510	416.3510	416.3510
右 近 次 郎 村	454.2510	454.2510	460.3870
下 舌 村	733.5000	733.5000	741.2000
上 舌 村	366.5200	366.5200	366.5200
領 家 村	469.1000	469.1000	470.0710
地 頭 方 村	413.8580	413.8580	417.0320
上 黒 谷 村	524.0000	524.0000	526.4540
下 黒 谷 村	377.3700	377.3700	379.0600
上 荒 井 村	262.7000	262.7000	265.0577
深 井 村	378.0080	378.0080	378.0880
飯 降 村	267.4330	267.4330	277.5040
畷 掛 村	511.0870	511.0870	520.8170
計	5,174.1780	5,174.1780	5,218.5417

五箇地区

単位：石

村名	正保郷帳	元禄郷帳	天保郷帳
佛 原 村	4.0500	4.0500	4.0500
西 勝 原 村	38.2210	38.2210	38.2210
東 勝 原 村	9.2700	9.2700	9.2700
下 打 波 村	5.5600	5.5600	5.5600
上 打 波 村	6.8200	6.8200	6.8200
計	63.9210	63.9210	63.9210

上庄地区

単位：石

村名	正保郷帳	元禄郷帳	天保郷帳
中 村	459.9600	459.9600	465.4530
下 掘 村	686.5880	686.5880	691.7480
中 掘 村	508.6400	508.6400	508.8700
五 條 方 村	720.0900	720.0900	753.6940
佐 開 村	311.5000	311.5000	487.1010
御 給 村	615.8340	615.8340	615.8340
吉 村	516.8590	516.8590	516.8590
森 政 領 家 村	375.9190	381.9190	381.9190
森 山 村	125.5600	125.5600	125.5600
東 山 村	608.5380	608.5380	608.5380
平 沢 領 家 村	119.4250	119.4250	119.4250
平 沢 地 頭 村	652.5820	652.5820	652.5820
木 本 地 頭 村	877.2380	877.2380	877.2380
木 本 新 田 村	-	427.8090	427.8090
猪 嶋 村	857.1300	857.1300	857.1300
稲 郷 村	1,018.0080	1,018.0080	1,108.3880
今 井 村	481.1000	538.5130	538.5130
木 本 領 家 村	540.9000	635.1080	643.2490
宝 慶 寺 村	236.0600	236.0600	200.2640
西 山 村	694.6020	694.6020	800.0880
野 中 村	560.8590	560.8590	560.8590
開 発 村	417.2200	417.2200	417.2200
下 郷 村	137.0300	137.0300	172.4470
森 政 地 頭 村	174.1200	174.1200	174.1200
友 兼 村	378.4740	378.4740	379.9940
北 御 門 村	427.9700	427.9700	427.9700
若 子 村	11.5000	7.6667	8.1813
下 若 子 村	-	3.8333	5.6952
計	12,513.7060	13,099.1360	13,526.7485

富田地区

単位：石

村名	正保郷帳	元禄郷帳	天保郷帳
上野村	695.2100	695.2100	695.2100
新河原村	216.2200	216.2200	216.2200
土布子村	280.3000	280.3000	280.3000
井口村	271.1500	271.1500	271.1500
川嶋村	125.0300	125.0300	125.0300
蕨生村	762.1900	762.1900	943.5800
下唯野村	404.2650	508.7890	551.9260
七板村	320.1400	377.2250	489.5610
木落村	107.0000	107.0000	107.0000
上麻生嶋村	881.7100	226.0730	226.0730
下麻生嶋村		862.0260	903.8860
田野村	864.4100	864.4100	864.4100
土打村	615.2900	615.2900	693.2450
富嶋村	825.2800	825.2800	825.2800
森目村	602.6100	602.6100	565.3630
計	6,970.8050	7,338.8030	7,758.2340

阪谷地区

単位：石

村名	正保郷帳	元禄郷帳	天保郷帳
御領村	168.1700	168.1700	168.1700
石谷村	146.9000	146.9000	146.9000
松丸村	693.1200	693.1200	693.1200
柿ヶ嶋村	567.1700	581.0870	598.1710
堂嶋村	200.1700	270.4960	340.8210
(金山村)		40.4610	
蓑道村	295.6000	315.4900	324.4940
坂谷六呂師村	395.8000	395.8000	631.2800
花房村	280.6400	280.6400	280.9200
落合村	127.5600	127.5600	128.5240
萩ヶ野村	364.4400	364.4400	364.6400
不動堂村	497.9400	497.9400	500.2200
森本村	344.3900	344.3900	344.3900
大月村	219.8330	219.8330	219.8330
橋爪村	277.1600	277.1600	278.5920
八町村	336.7100	336.7100	336.7100
伏石村	453.8600	453.8600	453.8600
小黒見村	98.8700	98.8700	98.8700
計	5,468.3330	5,612.9270	5,909.5150

西谷地区

単位：石

村名	正保郷帳	元禄郷帳	天保郷帳
笹俣村	12.0000	8.8600	8.8600
下笹俣村	-	3.1400	3.1400
中嶋村	12.0000	12.0000	12.0000
黒當戸村	9.0000	9.0000	9.0000
小澤村	11.0000	11.0000	11.0000
下秋生	12.0000	12.0000	12.0000
上秋生	12.0000	12.0000	12.0000
巢原村	5.5000	5.5000	5.5000
温見村	5.5000	5.5000	5.5000
熊河村	6.5000	6.5000	6.5000
計	85.5000	85.5000	85.5000

和泉村 (下穴馬村)

集 落 名	正保郷帳	元禄郷帳	天保郷帳
長 野	14.3900	14.3900	14.3900
鷺	3.5800	3.5800	3.5800
角 野	9.8500	9.8500	9.8500
下 大 納	9.2900	9.2900	9.2900
上 大 納	36.0000	36.0000	36.0000
下 山	13.3000	13.3000	13.3000
板 倉	5.2990	5.2990	5.2990
朝 日	7.0630	7.0630	7.0630
川 合	12.4340	12.4340	12.4340
貝 皿	5.6190	5.6190	5.6190
伊 月	2.7060	2.7060	2.7060
後 野	8.0690	8.0690	8.0690
角 野 前 坂	3.2600	3.2600	3.2600
朝 日 前 坂	4.1280	4.1280	4.1280
三 面	石徹白村につき無高 全戸離村無住地		
小 谷 堂			
計	134.9880	134.9880	134.9880

三面・小谷堂は旧石徹白村に属す。

和泉村 (上穴馬村)

集 落 名	正保郷帳	元禄郷帳	天保郷帳
東 布 市	3.7360	3.7360	3.3260
上 半 原	7.8980	7.8980	7.8980
下 半 原	7.6320	7.6320	7.6320
荷 暮	3.7510	3.7510	3.7510
箱 ケ 瀬	12.6310	7.6210	7.6210
持 穴	箱ヶ瀬村の枝郷	5.1000	5.1000
面 谷	箱ヶ瀬村の枝郷		
伊 勢	10.5000	10.5000	10.5000
久 澤	9.0000	9.0000	9.0000
米 俵	4.9000	4.9000	4.9000
大 谷	10.9100	10.9100	10.9100
野 尻	8.7840	8.7840	8.7840
計	79.7420	79.8320	79.4220

天保郷帳・元禄郷帳は国立公文書館内閣文庫の所蔵である。

正保郷帳は平凡社刊「福井県の地名」による。

藩領の変遷

江戸幕府は、絶対的な権力を維持するために有能な人たちを登用して武家諸法度という法令を定め、少しでも幕府にそむいたり、法令を守らなかった大名を処罰しました。

家康の次男結城（松平）秀康は、越前（福井）藩主として六十八万石を領有していました。長男の忠直は大坂冬・夏の陣で手柄をたてましたが、恩賞に不満を持ちたり、行動にも問題があり、家臣の争いもあって責任をとわれて、一六二三年（元和九）領地を奪われ豊後（今の大分県）へ流刑になりました。

幕府は福井藩の領地を五十万石に減らし、次男忠昌に相続させました。残りは三男直政に大野藩を新たに創設させ五万石を与え、四男直基に同じく勝山藩三万石、五男直良にも木本藩二万五千石を与えました。

その後も幕府の都合で大名の入れ替えが激しく行われ、大野の村々も大野・勝山・福井・鯖江・郡上（岐阜八幡）藩の他に幕府が直接治めた幕府の直轄地（天領）が入り組み、それぞれの支配を受けながら明治を迎えました。次の表はその変遷をまとめたものです。

表の見方

- 1 大矢戸村の場合、慶長五年から福井藩領、寛永元年から大野藩領、天和二年から幕府直轄地（天領）になって福井藩に預けられていましたが、貞享三年に幕府が直接支配するようになり、元禄五年以降は鯖江藩領となり、幕末の文久二年には幕府直轄地になったことを示しています。
- 2 小矢戸村が天和二年以降ふたつに分かれているのは、ここで大野藩領と幕府直轄地に分割され割郷（相給）になったことを示しています。（本文七十四・七十五頁を参照）
- 3 表の最下段の廃藩置県は、幕府直轄領が明治三年に本保県になり、その他の藩領が明治四年にそれぞれの県になったことを示しています。

集落	慶長五年	寛永元年	寛永十二年	寛永十四年	天和二年	貞享三年	元禄四年	元禄五年	享保五年	文久二年	廃藩置県
大野町	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領
中野	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領
西市	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領
太田	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領
庄	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領
下	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領
大矢戸	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領
	幕領福井預地	幕領								鯖江領	幕領

小		山		乾							側							下							庄							村落
阿難祖領家	阿難祖地頭方	上舌	下舌	犬山	矢	上丁	中丁	下丁	坂戸	尾永見	下大門	上大門	中荒井	葛蒲池	中保	中挟	友江	堂本	横枕	新在家	中津川	東六月	西六月	小矢戸	集落							
福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	慶長五年 一六〇〇							
大野領	大野領	大野領	大野領	大野領	大野領	大野領	大野領	大野領	大野領	大野領	大野領	大野領	大野領	大野領	大野領	大野領	大野領	大野領	大野領	大野領	大野領	大野領	大野領	大野領	寛永元年 一六二四							
																									寛永十二年 一六三五							
																									寛永十四年 一六三七							
																									天和二年 一六八二							
																									貞享三年 一六八六							
																									元禄四年 一六九三							
																									元禄五年 一六九二							
																									享保五年 一七二〇							
																									文久二年 一八六二							
																									廃藩置県 明治三十四年							

上										庄										小										山									
友兼	御給	東山	稲郷	野中	今井	平沢領家	平沢地頭	西山	森山	木本領家	木本地頭	宝慶寺	中(東中)	下据	中据	五條方	佐開	下若生子	上若生子	右近次郎	新庄	歙掛	飯降	深井	上荒井	下黒谷	上黒谷												
福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領											
木本領	木本領	木本領	木本領	木本領	木本領	木本領	木本領	木本領	木本領	木本領	木本領	木本領	大野領	大野領	大野領	大野領	大野領	大野領	大野領	大野領	大野領	大野領	大野領	大野領	大野領	大野領	大野領	大野領											
幕領福井預地	幕領福井預地	幕領福井預地	幕領福井預地	幕領福井預地	幕領福井預地	幕領福井預地	幕領福井預地	幕領福井預地	幕領福井預地	幕領福井預地	幕領福井預地	幕領福井預地	幕領福井預地	幕領福井預地	幕領福井預地	幕領福井預地	幕領福井預地	幕領福井預地	幕領福井預地	幕領福井預地	幕領福井預地	幕領福井預地	幕領福井預地	幕領福井預地	幕領福井預地	幕領福井預地	幕領福井預地	幕領福井預地											
福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領											
幕領	幕領	幕領	幕領	幕領	幕領	幕領	幕領	幕領	幕領	幕領	幕領	幕領	幕領	幕領	幕領	幕領	幕領	幕領	幕領	幕領	幕領	幕領	幕領	幕領	幕領	幕領	幕領	幕領											
	郡上領	郡上領				郡上領	郡上領		郡上領		郡上領																												
			鯖江領			鯖江領				鯖江領																													
			幕領			幕領				幕領																													

五箇		富										田										上庄										村落
東勝原	下打波	上打波	井ノ口	川嶋	上麻生嶋	下麻生嶋	土布子	新河原	田野	森目	新田	富嶋	上野	土打	七坂	下唯野	蕨生	木落	吉	北御門	猪島	下郷	森政地頭	森政領家	開発	集落						
福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	慶長五年 一六〇〇						
			大野領	大野領	大野領	大野領	大野領	大野領	木本領	木本領	木本領	木本領	木本領	木本領	木本領	木本領	木本領	木本領	木本領	木本領	木本領	木本領	木本領	木本領	木本領	寛永元年 一六二四						
									幕領福井領地	幕領福井領地	幕領福井領地	幕領福井領地	幕領福井領地	幕領福井領地	幕領福井領地	幕領福井領地	幕領福井領地	幕領福井領地	幕領福井領地	幕領福井領地	幕領福井領地	幕領福井領地	幕領福井領地	幕領福井領地	幕領福井領地	寛永十二年 一六三五						
									福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	寛永十四年 一六三七						
			幕領福井領地	幕領福井領地	幕領福井領地	幕領福井領地	幕領福井領地	幕領福井領地	松岡領	松岡領	松岡領	松岡領	松岡領	松岡領	松岡領	松岡領	松岡領	松岡領	松岡領	松岡領	松岡領	松岡領	松岡領	松岡領	松岡領	天和二年 一六八二						
幕領	幕領	幕領	幕領	幕領	幕領	幕領	幕領	幕領	幕領	幕領	幕領	幕領	幕領	幕領	幕領	幕領	幕領	幕領	幕領	幕領	幕領	幕領	幕領	幕領	幕領	貞享三年 一六八六						
														勝山領	勝山領	勝山領	勝山領	勝山領	勝山領	勝山領	勝山領	勝山領	勝山領	勝山領	勝山領	元祿四年 一六九三						
													郡上領													元祿五年 一六九二						
																										享保五年 一七二〇						
																										文久二年 一八六二						
																										慶應置巢 明治四年						

西		阪										谷		五箇													
上秋生	下秋生	本戸	黒当戸	中島	上笹又	下笹又	南六呂師	大月	石谷	不動堂	花房	萩ヶ野	松丸	森本	小黒見	金山	堂嶋	落合	斐道	橋爪	御領	八町	柿ヶ嶋	伏石	佛原	西勝原	
福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領
大野領	大野領	大野領	大野領	大野領	大野領	大野領	木本領	木本領	木本領	木本領	木本領	木本領	木本領	木本領	木本領	木本領	木本領	木本領	木本領	木本領	木本領	木本領	木本領	木本領	木本領	木本領	木本領
							勝山領	勝山領	勝山領	勝山領	勝山領	勝山領	勝山領	勝山領	幕領福井預地	幕領福井預地	幕領福井預地	幕領福井預地	幕領福井預地	幕領福井預地	幕領福井預地	幕領福井預地	幕領福井預地	幕領福井預地	幕領福井預地	幕領福井預地	幕領福井預地
							幕領福井預地(正保元)	幕領福井預地(正保元)	幕領福井預地(正保元)	幕領福井預地(正保元)	幕領福井預地(正保元)	幕領福井預地(正保元)	幕領福井預地(正保元)	幕領福井預地(正保元)	幕領福井預地(正保元)	幕領福井預地(正保元)	幕領福井預地(正保元)	幕領福井預地(正保元)	幕領福井預地(正保元)	幕領福井預地(正保元)	幕領福井預地(正保元)	幕領福井預地(正保元)	幕領福井預地(正保元)	幕領福井預地(正保元)	幕領福井預地(正保元)	幕領福井預地(正保元)	幕領福井預地(正保元)
							幕領	幕領	幕領	幕領	幕領	幕領	幕領	幕領	幕領	幕領	幕領	幕領	幕領	幕領	幕領	幕領	幕領	幕領	幕領	幕領	幕領
							勝山領	勝山領	郡上領	勝山領	勝山領	勝山領	勝山領	勝山領	勝山領	勝山領	勝山領	勝山領	勝山領	勝山領	勝山領	勝山領	勝山領	勝山領	勝山領	勝山領	勝山領
													郡上領								郡上領					郡上領	郡上領
															福井領(享保六)							福井領(享保六)				福井領(享保六)	福井領(享保六)

和泉村 (旧上穴馬村)				和泉村 (旧下穴馬村)										西谷			村落													
箱ヶ瀬	野尻	大谷	米俵	伊勢三村	久沢	荷暮	下半原	上半原	市布	後野	朝日前坂	角野前坂	長野	鷺	板倉	伊月	貝皿	川合	朝日	角野	上大納	下大納	下山	温見	熊河	栗原	小沢	集落		
福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	福井領	慶長五年 一六〇〇	
大野領 (面谷・持穴は箱ヶ瀬の枝村)	幕領	幕領	幕領	幕領	幕領	幕領	幕領	幕領	幕領	幕領	幕領	幕領	幕領	幕領	幕領	幕領	幕領	幕領	幕領	幕領	幕領	幕領	幕領	幕領	幕領	幕領	幕領	幕領	幕領	寛永元年 一六二四
																														寛永十二年 一六三五
																														寛永十四年 一六三七
																														天和二年 一六八二
																														貞享三年 一六八六
																														元禄四年 一六九三
																														元禄五年 一六九二
																														享保五年 一七二〇
																														文久二年 一八六二
																														廢藩置県 明治三十四年

大野市文化財目録

No.	指定区分	種別	名称	時代	数量	所在地	所有者等	指定年月日
1	国	建造物	旧橋本家住宅	江戸中期	1棟	宝慶寺	大野市	昭44.12.18
2	国	天然記念物	本願清水イトヨ生息地			糸魚町	大野市	昭9.5.1
3	国	天然記念物	専福寺の大ケヤキ			友兼	専福寺	昭10.6.7
4	国	登録	平成大野屋本店洋館	昭和12年 (1937)	1棟	元町	大野市	平10.9.2
5	国	登録	平成大野屋本店二階蔵	明治後期	1棟	元町	大野市	平10.9.2
6	国	登録	南部酒造場店舗	明治	1棟	元町	南部隆保	平13.11.20
7	国	登録	南部酒造場旧酒蔵前蔵	明治	1棟	元町	南部隆保	平13.11.20
8	国	登録	南部酒造場旧酒蔵大蔵	大正8 (1919)	1棟	元町	南部隆保	平13.11.20
9	国	登録	南部酒造場西蔵	明治22 (1889)	1棟	元町	南部隆保	平13.11.20
10	国	登録	南部酒造場米蔵	明治22 (1889)	1棟	元町	南部隆保	平13.11.20
11	国	登録	鬼谷川堰堤	明治	1基	佐開	福井県	平15.9.19

No.	指定区分	種別	名称	時代	数量	所在地	所有者等	指定年月日
1	県	絵画	絹本着色 道元禪師画像	鎌倉	1幅	宝慶寺	宝慶寺	昭37.5.15
2	県	絵画	絹本着色 如浄禪師画像	鎌倉	1幅	宝慶寺	宝慶寺	昭37.5.15
3	県	絵画	絹本着色 釈迦三尊像	鎌倉	1幅	宝慶寺	宝慶寺	昭37.5.15
4	県	絵画	絹本着色 雲居道膺和尚画像	鎌倉～室町	1幅	宝慶寺	宝慶寺	昭37.5.15
5	県	彫刻	木造 阿弥陀如来坐像 銅造 阿弥陀如来立像		2躯	錦町	善導寺	平6.5.20
6	県	書跡・典籍・古文書	紙本墨書 伝道元筆「阿闍世王之六臣」法語	鎌倉	1巻	宝慶寺	宝慶寺	昭37.5.15
7	県	書跡・典籍・古文書	紺紙金字法華経	鎌倉	10巻	錦町	妙典寺	昭50.6.3
8	県	無形民俗	神子踊			上打波	神子踊保存会	昭34.9.1
9	県	無形民俗	平家踊			篠座町	平家踊保存会	昭37.5.15
10	県	無形民俗	扇踊			中挟	扇踊保存会	昭39.6.5
11	県	史跡	越前大野城跡			城町	大野市	昭32.7.30
12	県	天然記念物	白山神社のカツラ			下打波	下打波区	昭34.9.1

No.	指定区分	種別	名称	時代	数量	所在地	所有者等	指定年月日
1	市	建造物	南専寺山門		1棟	下唯野	南専寺	昭40.7.29
2	市	建造物	大野市郷土歴史館	明治15年 (1882)	1棟	城町	大野市	昭46.2.24
3	市	絵画	紙本 日蓮上人法華大曼荼羅		1幅	錦町	妙典寺	昭33.7.17
4	市	絵画	伝岩佐又兵衛筆 三十六歌仙屏風		六曲 半双	錦町	円立寺	昭33.7.17
5	市	絵画	絹本 十六善神図幅	室町中期	1幅	錦町	大宝寺	昭33.7.17
6	市	絵画	絹本 狩野山雪筆 維摩居士図幅	江戸	1幅	錦町	善導寺	昭36.1.26
7	市	絵画	絹本 土井利忠筆 菊花図幅	江戸	1幅	錦町	善導寺	昭36.1.26
8	市	絵画	紙本 伝岩佐勝重筆 三十六歌仙画帖	江戸	6帖	天神町	天神町区	昭40.1.22
9	市	絵画	蓮如上人鏡の御影	室町 明応7年 (1498年)	1幅	稲郷	最勝寺	昭53.3.1
10	市	書跡	絹本 蓮如上人鏡の御影裏書	室町 明応7年 (1498年)	1幅	稲郷	最勝寺	昭53.3.1
11	市	絵画	方便法身尊像(阿弥陀如来像)	室町 文龜2年 (1501年)	1幅	南六呂師	雲乗寺	昭62.7.16
12	市	絵画	仏涅槃図	室町初期	1幅	清瀧	洞雲寺	昭62.7.16
13	市	絵画	美人風俗図屏風	江戸初期	二曲 二双	今井	西応寺	昭62.7.16
14	市	彫刻	木造 元勲和尚倚像	江戸初期	1軀	清瀧	洞雲寺	昭33.7.17
15	市	彫刻	備荒倉扁額	江戸 嘉永年間	1点	菰ヶ野	飯岡彦兵衛	昭33.7.17
16	市	彫刻	木造 十一面観音坐像	鎌倉後期 ~南北朝	1軀	下黒谷	仏性寺	昭33.7.17
17	市	彫刻	木造 白山神社本尊坐像		1軀	下黒谷	下黒谷 白山神社	昭33.7.17
18	市	彫刻	木造 十一面観音坐像	室町中期	1軀	鍛掛	地藏庵	昭33.7.17
19	市	彫刻	木造 地藏菩薩半跏像	鎌倉後期	1軀	鍛掛	洪泉寺	昭33.7.17
20	市	彫刻	木造 子安観音坐像	江戸中期	1軀	深井	春日神社	昭33.7.17
21	市	彫刻	春日神社本尊像	江戸	3軀	深井	春日神社	昭33.7.17
22	市	彫刻	扇面散らし欄間	江戸	1面	錦町	円立寺	昭33.7.17
23	市	彫刻	石造 不動明王立像	江戸	1軀	上荒井	水口与作	昭33.7.17
24	市	彫刻	木造 釈迦如来仏頭	鎌倉~南北朝	1基	佐間	荒島神社	昭46.2.25
25	市	彫刻	木造 阿弥陀如来立像および胎内経	江戸	1軀	北御門	北御門区	昭46.2.25
26	市	彫刻	鼻高面	江戸	1面	北御門	北御門区	昭46.2.25
27	市	彫刻	猿楽の厨面	鎌倉後期	1面	上舌	高津靖生	昭55.11.26
28	市	彫刻	不動明王立像	鎌倉後期	1軀	錦町	大宝寺	平5.5.26
29	市	彫刻	釈迦如来坐像	南北朝	1軀	明倫町	曹源寺	平5.5.26
30	市	彫刻	観音菩薩立像	平安後期	1軀	清瀧	洞雲寺	平5.5.26

31	市	工艺品	蓬莱山円鏡	室町	1面	中野町	松田一郎	昭33.7.17
32	市	工艺品	瑞花双鳳八稜鏡		1面	中野町	滝波武利	昭33.7.17
33	市	工艺品	画文帯神獸鏡		1面	豊町	教願寺	昭33.7.17
34	市	工艺品	高橋吉重作脇差	江戸 寛文3年 (1663)	1口	春日1丁目	坂井武男	昭39.12.22
35	市	工艺品	押出仏三体	室町	3体	牛ヶ原	八幡神社	昭46.2.25
36	市	工艺品	白山山頂出土の山岳信仰遺品	平安	4点	天神町	大野市	平1.6.26
37	市	歴史資料 (史料)	袈裟	1箱倉中期、2箱 倉後期、3箱北朝	3領	宝慶寺	宝慶寺	平5.5.26
38	市	歴史資料 (史料)	頭陀袋	鎌倉	3肩	宝慶寺	宝慶寺	平5.5.26
39	市	書跡	短冊手鑑	江戸中期	1冊	横枕	野尻了子	昭33.7.17
40	市	書跡	朝倉義景筆短冊	戦国	1点	中野町	滝波武利	昭33.7.17
41	市	書跡	武田耕雲斎筆扁額	江戸	1面	元町	布川博雄	昭39.12.22
42	市	書跡	絹本 伝親鸞聖人筆十字名号	戦国 永正2年 (1505)	1幅	中丁	真乗寺	昭46.2.24
43	市	書跡	土井利恒公扁額	明治14年 (1881)	1点	明倫町	有終西小学校	昭55.5.27
44	市	書跡	土井利恒筆詩幅	明治	1幅	春日2丁目	有終南小学校	昭55.5.27
45	市	書跡	雷澤宗校墨蹟「萬年字号偈」	室町 永正8年 (1511)	1点	日吉町	瑞祥寺	昭62.7.16
46	市	書跡	建綱筆宝慶寺由緒記	室町	1巻	宝慶寺	宝慶寺	昭33.7.17
47	市	典籍	大野藩洋学館旧蔵和蘭の原書翻訳書字典	江戸末期 (1743~1858)	2冊 2冊*10冊	新庄	福井県立 大野高等学校	昭33.7.17
48	市	典籍	大野藩病院旧蔵医学書	江戸末期 (1857~1861)	31冊	本町	岩治勉	昭33.7.17
49	市	典籍	大野藩洋学館旧蔵和蘭の翻訳書	江戸末期	16冊	天神町	大野市	昭33.7.17
50	市	古文書	歴代朝倉文書	室町後期	2巻	清瀧	洞雲寺	昭33.7.17
51	市	古文書	前波長俊書状	戦国 天正元年 (1573)	1通	宝慶寺	宝慶寺	昭33.7.17
52	市	古文書	滝川一益等連署寺領安堵状	戦国 天正元年 (1573)	1通	宝慶寺	宝慶寺	昭33.7.17
53	市	古文書	知円弥弥寄進状	鎌倉 正安元年 (1299)	1通	宝慶寺	宝慶寺	昭33.7.17
54	市	古文書	円聰弥弥寄進状	南北朝 貞治 4年 (1365)	1通	宝慶寺	宝慶寺	昭33.7.17
55	市	古文書	如忻寺領目録	戦国 永正元年 (1504)	1通	宝慶寺	宝慶寺	昭33.7.17
56	市	古文書	存因寺領目録	戦国 永禄9年 永禄12年	2通	宝慶寺	宝慶寺	昭33.7.17
57	市	古文書	走り川漁業権文書	戦国 天正年間	1点	泉町	勝矢文一	昭33.7.17
58	市	古文書	朝倉義景書状	戦国	1通	中野町	松田一郎	昭33.7.17
59	市	古文書	朝倉義景感状	戦国	1通	中野町	松田一郎	昭33.7.17
60	市	古文書	朝倉景鏡感状	戦国 元龜元年 (1570)	1通	中野町	松田一郎	昭33.7.17
61	市	古文書	不動堂村境界文書	安土桃山 慶長 3年 (1598)	1点	不動堂	不動堂区	昭33.7.17

62	市	古文書	小栗美作守書状	江戸 元和9年 (1623)	1通	要町	教願寺	昭33.7.17
63	市	古文書	金森長近寄進状	安土桃山	1通	友兼	尊福寺	昭33.7.17
64	市	古文書	松平直久宛書	江戸 寛永元年 (1624)	1点	友兼	尊福寺	昭34.12.17
65	市	古文書	金森長近禁制状	安土桃山	1通	日吉町	恵光寺	昭36.1.26
66	市	古文書	金塚漁業権文書	安土桃山 ～江戸	8点	天神町	天神町区	昭40.1.22
67	市	古文書	大野郡鍛冶座文書	戦国～江戸	7点	元町	尾崎庄一	昭48.3.30
68	市	古文書	藤野文書	江戸末期	20点	天神町	大野市	平1.6.26
69	市	考古資料 (史料)	大矢戸古墳遺物	古墳	3点	天神町	大野市	昭33.8.27
70	市	考古資料 (史料)	須恵器横瓶	奈良～平安	1点	天神町	大野市	昭33.11.3
71	市	歴史資料 (史料)	武田耕雲斎遺留日本地図	江戸末期	2枚	木本	杉本敏憲	昭33.7.17
72	市	無形民俗	三社の雨乞い踊り			牛ヶ原 (尾永見)	雨乞い 踊り保存会	昭42.5.18
73	市	無形民俗	仕ぐさ踊り			菖蒲池	菖蒲地区	昭46.2.25
74	市	史跡	黒谷経塚跡	平安末期	1基	下黒谷	下黒谷区	昭33.7.17
75	市	史跡	明倫館跡	江戸末期		明倫町	有終西小学校	昭33.7.17
76	市	史跡	朝倉義景墓	江戸中期	1基	泉町	大野市	昭33.7.17
77	市	史跡	土屋正明墓	江戸中期 宝暦 3年(1753)	1基	錦町	善導寺	昭33.7.17
78	市	史跡	小山城址(城山)	室町中期		北御門・医王寺・ 森政領家		昭33.7.17
79	市	史跡	亥山城址	戦国		日吉町	日吉神社	昭33.7.17
80	市	史跡	将監城址	室町中期		西勝原		昭33.7.17
81	市	史跡	戌山城址	南北朝		犬山		昭35.5.11
82	市	史跡	土井家累代廟所	江戸		錦町	善導寺	昭40.1.22
83	市	史跡	越前大野城百間堀跡	江戸		城町	大野市	昭42.5.18
84	市	名勝	南専寺庭園	江戸		下唯野	南専寺	昭40.7.29
85	市	天然記念物	義雲杉	鎌倉～室町	1本	宝慶寺	宝慶寺	昭33.7.17
86	市	天然記念物	春日神社の大いちよう		1本	不動堂	不動堂区	昭33.7.17
87	市	天然記念物	ナポレオン石			下若生子	側富士 カントリー	昭40.7.29
88	市	天然記念物	桃木峠の大杉		1本	上打波	福井森林管理 署・中村藤男	昭42.8.19
89	市	天然記念物	八幡神社の大杉		2本	牛ヶ原	尾永見区	昭46.2.25
90	市	天然記念物	石灰華形成地			上打波	大倉二男 大倉喜一	平4.10.28
91	市	天然記念物	平家平のトチノキ		1本	巢原	大野市	平8.9.26

和泉村文化財目録

No.	指定区分	種別	名称	時代	数量	所在地	所有者等	指定年月日
1	県	絵画	絹本着色 光明号本尊 (光明品)	室町初期	1幅	大納	浄菜寺	昭44.4.1

No.	指定区分	種別	名称	時代	数量	所在地	所有者等	指定年月日
1	村	絵画	方便法身尊像 (繪像) 及び裏書き	室町	1幅	角野前坂道場	角野前坂区長	昭56.7.1
2	村	彫刻	阿弥陀如来立像及び木仏免許状		1軀	角野前坂道場	角野前坂区長	昭56.7.1
3	村	書跡	御文章第五帖	室町	1冊	角野前坂道場	角野前坂区長	昭56.7.1
4	村	考古資料 (民俗資料)	縄文時代深鉢	縄文	1点	郷土資料館	和泉村	昭47.7.14
5	村	考古資料 (民俗資料)	縄文時代深鉢	縄文	1点	郷土資料館	和泉村	昭47.7.14
6	村	考古資料 (民俗資料)	縄文時代小児カメ棺	縄文	1点	郷土資料館	和泉村	昭47.7.14
7	村	考古資料	縄文式土器 (壺)	縄文	1点	郷土資料館	和泉村	昭51.12.22
8	村	考古資料	縄文式土器 (甕)	縄文	1点	郷土資料館	和泉村	昭51.12.22
9	村	考古資料	縄文式土器 (把手付深鉢)	縄文	1点	郷土資料館	和泉村	昭53.12.18
10	村	考古資料	縄文式土器 (深鉢)	縄文	1点	郷土資料館	和泉村	昭53.12.18
11	村	考古資料	縄文式土器 (深鉢)	縄文	1点	郷土資料館	和泉村	昭53.12.18
12	村	考古資料	縄文式土器 (深鉢)	縄文	1点	郷土資料館	和泉村	昭53.12.18
13	村	有形民俗	投げ賽銭跡のある壇縁および内陣		1基	角野前坂道場	角野前坂区長	昭56.7.1
14	村	史跡	角野前坂縄文遺跡	縄文		角野前坂沖の島 第20号5番地	平瀬安一	昭47.7.14
15	村	史跡	小谷堂縄文遺跡	縄文		小谷堂	木島政雄	昭47.7.14
16	村	天然記念物	天狗岩			後野5字下夕林	後野区長	昭61.8.25

西暦	年号	国や県のできごと	大野のできごと
六四五	大化元	<ul style="list-style-type: none"> ・大化の改新。 	
六四六	大化二	<ul style="list-style-type: none"> ・班田収授法が出された。 	
六八二	持統六	<ul style="list-style-type: none"> ・この年、泰澄が生まれたといわれる。 	
六九二	和銅三	<ul style="list-style-type: none"> ・「越前」の名がはじめて見られる（『日本書紀』）。 	
七一〇	養老六	<ul style="list-style-type: none"> ・平城京に都を移す。 	
七一六	天平元	<ul style="list-style-type: none"> ・この年、泰澄が白山神の夢のお告げを受けたといわれる。 	
七二二	天平十三	<ul style="list-style-type: none"> ・越前など八ヶ国から初めて調銭が納められた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平城宮出土の木簡に大野の名が見られる。
七二九	天平十三	<ul style="list-style-type: none"> ・国分寺建立の命が出た。 	<ul style="list-style-type: none"> ・興福寺（奈良市）が越前国丹生・大野・坂井郡の田地を領した。
七四一	天平十五	<ul style="list-style-type: none"> ・壱田永年私財法が出された。 	<ul style="list-style-type: none"> ・『万葉集』に出てくる「叔羅河の鵜飼」とは「篠座川の鵜飼」か？
七四三	天平勝宝二	<ul style="list-style-type: none"> ・この年、泰澄が越智山に入ったといわれる。 	
七四九	神護景雲元	<ul style="list-style-type: none"> ・この年、泰澄が死んだといわれる。 	
七五〇	延暦十三	<ul style="list-style-type: none"> ・平安京に都を移す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・興福寺荘園がひろがる。
七五八	元慶五	<ul style="list-style-type: none"> ・『延喜式』の制作が始まる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・磐座神社・篠座神社・椀神社・大槻磐座神社・坂門一事神社・風速神社・国生大野神社・高於磐座神社・荒嶋神社の九社が延喜式に記録されている。
七六七	延喜五		
七九四			
八八一			
九〇五			

一〇八六	応徳三	・白河上皇、院政を始めた。
一〇八八	寛治二	・越前守源高実が牛原荘二百町余りを醍醐寺円光院に寄進した。
一〇九〇	寛治四	・越前守源清実が円光院領牛原荘の縮減をはかった。
一一二七	大治二	・牛原荘の内検帳が作成された。
一一三二	長承元	・円光院領牛原荘の東限が大野河となった。
一一三三	長承二	・僧の承真が大野郡の一ヶ所を藤原成通の政所に寄進した。
一一四二	康治元	・醍醐寺円光院に牛原荘の四至を一〇八六年(応徳三)の時に戻すよう命令が出た。
一一五七	保元二	・大野河以西の中夾を円光院領牛原荘とする命令が出た。
一一六七	仁安二	・牛原荘の住人が越前国司藤原惟方が課した人夫役の停止を訴えた。
一一七六	安元二	・黒谷の経塚に、経筒や和鏡などをおさめた。
一一八一	養和元	・安楽寿院領として大野郡小山荘などの名がみられる。(高山寺文書)
一一九二	建久三	・加賀国の賊徒が越前国に乱入し大野・坂北の両郷を焼き払った。
一二〇〇	正治二	・大野郡小山荘・泉荘の地頭として北条義時の名が見られる。
一二一六	建保四	
		・鎌倉幕府が開かれた。 ・道元が京都で生まれた。
		・平清盛が太政大臣になった。

西暦	年号	国や県のできごと	大野のできごと
一一四三	寛元元	・道元が越前に入った。	・道元が禪師峰の庵で『正法眼蔵』を著した。
一一四六	寛元四		・寂円が大野郡木本郷の銀杏峰で坐禅した。
一一五三	建長五	・道元が京都で死去した。	・大野郡泉莊三ヶ郷について領家と地頭藤原長継が和与中分をおこなった。
一一六一	弘長元		・寂円が宝慶寺を開いた。
一一七八	弘安元		・この頃、円光院、平泉寺、鎌倉幕府の間に、莊園について争いがおきた。
一二九〇	正応三		・大野郡小山莊について、地頭伊自良氏と領家興福寺浄名院が和与中分をおこなった。
一二九七	永仁五		・義雲が宝慶寺から永平寺に移った。
一三一四	正和三	・鎌倉幕府が減んだ。	・大野郡牛原莊の淡川時治が平泉寺衆徒の攻撃を受け自害した。
一三三三	元弘三	・新田義貞が藤島で戦死した。	・この頃、美濃にいた堀口氏が大野に入り、居山城をつくったと伝えられる。
一三三八	延元三	・室町幕府が開かれた。	・北朝軍が大野郡西方寺城を攻撃した。
一三三九	(北朝・暦応元) 延元四		・南朝軍が大野郡などの諸城を攻撃した。
一四四二	嘉吉二		・大野郡泉・小山莊を二宮土佐守が任せられた。
一四五九	長祿三		・大野郡井野部郷の名主が、同郷内に乱入した軍勢によって百姓二名が討たれたことを報告した。

一四六七	応仁元	<ul style="list-style-type: none"> ・ 応仁の乱がはじまった。 	
一四七一	文明三	<ul style="list-style-type: none"> ・ 朝倉孝景が、越前守護に任ぜられ、一乗谷の文化が栄え始めた。 	
一四七五	文明七	<ul style="list-style-type: none"> ・ 斯波持種が死去した。 	
一四九四	明応三	<ul style="list-style-type: none"> ・ 朝倉光玖が死去した。 	
一五〇六	永正三	<ul style="list-style-type: none"> ・ 加賀・越中・能登の一向宗徒が越前に入り、朝倉氏に敗れた。 	
一五六八	永禄十一	<ul style="list-style-type: none"> ・ 足利義昭が朝倉館を訪れた。 	
一五七三	天正元	<ul style="list-style-type: none"> ・ 室町幕府が滅んだ。 	
一五七四	天正二	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一揆勢が平泉寺を焼討ちした。 	
一五七五	天正三	<ul style="list-style-type: none"> ・ 柴田勝家が北の庄を治めた。 	
一五七六	天正四	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本能寺の変がおきた。 	
一五八二	天正十		
一五八六	天正十四		
一五八七	天正十五	<ul style="list-style-type: none"> ・ 秀吉がキリスト教の布教を禁止した。 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 小山城に斯波氏の家臣がおり、義廉が在城したことがあった。枝城の戌山城をつくり、城主が五代つづいた。 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 朝倉孝景の軍が大野郡戌山城の二宮勢を夜襲した。 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 朝倉義景が一乗谷から洞雲寺に入り、六坊賢勝寺で従兄弟の景鏡の裏切りによって自刃した。 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 金森長近が、大野の領主になった。 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 金森長近が、鍛冶の新座を停止した。 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 金森長近が、越前大野城の普請を始めた。 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 金森長近が飛騨を平定し、その領主に任ぜられた。 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 長谷川秀一、他二人が城主となった。 	

西曆	年号	国や県のできごと	大野のできごと
一五八八	天正十六	・秀吉の刀狩がおこなわれた。	
一六〇〇	慶長五	・関ヶ原の戦いがおきた。	
一六〇一	慶長六		
一六〇三	慶長八	・江戸幕府が開かれた。	
一六〇四	慶長九	・幕府、北陸道などを整備し一里塚をつくった。	
一六〇七	慶長十二		
一六一五	元和元	・大坂夏の陣で、豊臣氏滅亡。武家諸法度が出される。	
一六二四	寛永元	・北の庄を改めて、福井と名づけた。	
一六三三	寛永十		
一六三五	寛永十二		
一六四一	寛永十八	・オランダ人を出島に隔離、鎖国が完成した。	
一六四四	正保元		
一六六一	寛文元	・福井藩が、初めて藩札を発行した。	
一六七八	延宝六		
一六八二	天和二		
一六八五	貞享二	・初めて生類憐れみの令が出された。	
一六九一	元禄四	・小笠原氏勝山藩ができる。	
一六九二	元禄五		
一六九九	元禄十二		

一七〇七	宝永四	・享保の改革始まる。 ・鯖江藩ができる。
一七一六	享保元	
一七二〇	享保五	
一七三〇	享保十五	
一七三三	享保十八	
一七四九	寛延二	
一七五六	宝暦六	
一七七四	安永三	
一七七五	安永四	
一七八〇	安永九	
一七八二	天明二	・天明の大飢饉始まる。 ・浅間山が大噴火する。
一七八三	天明三	
一七八七	天明七	・松平定信が老中となり、寛政の改革が始まる。
一七八九	寛政元	
一七九一	寛政三	
一七九二	寛政四	
一七九五	寛政七	・ロシアのラツクスマン、根室に来る。
		・木本、岩崎用水争いに幕府の裁許が出た。 ・大野にも鯖江藩領ができた。 ・大野藩が初めて藩札を発行した。 ・大野藩が初めて大庄屋をおいた。 ・六呂師、上谷野秣場争論で幕府の裁許が出た。 ・木本開畑地の争いに幕府の裁許が出た。 ・大雨で真名川、清滝川の堤防が決壊し、大洪水となる。 ・町の野口村から出火（太郎兵衛火事）。町の大半を焼失し、大野城本丸も焼失した。 ・大野城下で大火。 ・大野郡内大飢饉。米の領外輸送を禁じた。 ・西山村でうちこわしがあり、菖蒲池川原にも人が集まり、郡内が騒然とする。 ・寺町蓮光寺から出火。町の大半が焼失。 ・佐開の鬼谷が崩れ、土石流が真名川に流入。大井用水なども決壊して大災害となった。 ・幕府から五千両借りて、面谷鉾山を藩経営とし、水抜き工事を始めた。 ・大野城の本丸が再建された。

西曆	年号	国や県のできごと	大野のできごと
一七九九	寛政十一		<ul style="list-style-type: none"> ・大野藩が厳しい儉約令を出す。 ・堀兼用水と大井用水組が、堰をめぐって激しく争う。 ・栗原野の開墾が始まる。 ・下山村で雪崩が起こり、多くの死者が出た。 ・藩主利義の隠居をめぐって一揆が起こる。 ・野口村から出火(長四郎火事)。大火となる。 ・大火の根元となる野口村を移転させた。 ・二番上町から出火(おねば火事)。千戸余りが全焼した。 ・土井利忠が第七代藩主になった。 ・大ききんがあつたので、藩から救米を出した。 ・面谷鉾山が藩の御手山となった。 ・防火のため、一番町西側に石堤を築いた。 ・大飢饉で物価が高くなり、餓死者が多く出た。 ・大野藩が面谷鉾山を盛んに掘り、内山良休が奉行に任じられた。
一八〇四	文化元		
一八〇八	文化五		
一八二二	文政五		
一八二三	文政六		
一八二七	文政十		
一八二九	文政十二		
一八三〇	天保元		
一八三二	天保三		
一八三三	天保四	<ul style="list-style-type: none"> ・天保の大飢饉始まる。 	
一八三六	天保七		
一八三九	天保十		
一八四一	天保十二	<ul style="list-style-type: none"> ・天保の改革始まる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・土井利忠が「更始の令」を出し藩政改革を始めた。
一八四二	天保十三		

一八四三	天保十四	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校創設の令」を出した。 ・藩校「明倫館」をつくった。 ・早川武英が、赤根川の改修に努めた。 ・大野藩が、新田野で砲枝を演じた。 ・土田玄意(竜湾)が藩の命令をうけて、種痘の研究のため、長崎で学んだ。 ・土田竜湾が蘭書を購入して帰り、蘭学を教えた。 ・大野藩が大砲をつくった。 ・大野城下で織物が盛んにおこなわれた。 ・吉田拙蔵が蘭学専修のために、杉田成卿の門にはいった。 ・横田権蔵が、昌平校の安井・塩谷の門にはいった。 ・内山隆佐が、佐久間象山の門にはいった。 ・大野藩は小児に種痘を実施した。 ・幕府から『海上砲術全書』の出版を許された。 ・洋学館を会所内に新設した。 ・大聖寺・勝山・鯖江・丹波・丹後・江戸・佐賀などから、大野へ蘭学の勉学にくるものが多かった。 ・内山七郎右衛門・内山隆佐に蝦夷地開拓の命令が出た。
一八四四	弘化元	
一八四六	弘化三	
一八四九	嘉永二	
一八五〇	嘉永三	<ul style="list-style-type: none"> ・アメリカ使節ペリーが、浦賀へ来た。
一八五一	嘉永四	
一八五三	嘉永六	<ul style="list-style-type: none"> ・日米和親条約調印。
一八五四	安政元	
一八五六	安政三	

西曆	年号	国や県のできごと	大野のできごと
一八五七	安政四	越前の各地に地震があった。	<ul style="list-style-type: none"> ・大野藩が済生病院を西一番に開設した。 ・早川弥五左衛門に北蝦夷地を調べさせた。
一八五八	安政五	<ul style="list-style-type: none"> ・日米修好通商条約調印。 ・安政の大獄。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幕府は、大野藩に北蝦夷地の開拓を許可した。
一八五九	安政六		<ul style="list-style-type: none"> ・大野藩は大野丸をつくった。 ・箱館(函館)に大野屋をひらいた。
一八六〇	万延元		<ul style="list-style-type: none"> ・大野藩が他藩に先がけて、カラフトのウシヨロ付近を開拓した。
一八六四	元治元		<ul style="list-style-type: none"> ・大野丸が北海道の奥尻島の南で難破した ・米国船を救助した。
一八六五	慶応元		<ul style="list-style-type: none"> ・幕府は西カラフトを大野藩の準領地とみとめた。
一八六六	慶応二		<ul style="list-style-type: none"> ・大野丸が北海道の根室沖で座礁し難破した。 ・大野藩は産業奨励のため、生糸ほか七種の税を五年間免じた。 ・武田耕雲斎の一行八百人が、木本・池田より敦賀に出る。布川源兵衛がこれと交渉して大野町にはいらないようにした。 ・大野藩が京都の守備の命をうけ、嵯峨に常駐した。 ・大野藩が藩札を大量に出した。 ・大野藩が上野国から座繰機械を買い入れ、製糸を改良した。

一八七八	明治十一	<ul style="list-style-type: none"> ・農事通信報告をはじめた。
一八七六	明治九	<ul style="list-style-type: none"> ・西南戦争がおきた。
一八七五	明治八	<ul style="list-style-type: none"> ・戊辰戦争がおき、大野藩に箱館戦争への出兵の命令が出た。 ・大野藩が、木本原を町方に払い上げた。 ・大野県・福井県・足羽県とかわっていった。 ・学制がしかれ、それぞれの学区に一校ずつ学校がたてられた。 ・明倫館に足羽県の役所がおかれた。 ・大野にはじめて人力車が走った。 ・大野郵便役所が、七間布川源兵衛宅でひらかれた。 ・大野は敦賀県にはいった。 ・警察屯所(支所)が大野に設置された。 ・みのむし(ぼろんか)騒動がおきた。 ・明倫館のあとに有終学校がたてられ、小学普通教育をはじめた。 ・小学校授業法伝習所が、有終学校の一部をかりてひらかれた。 ・大野が石川県にはいった。 ・大野郡より西南戦争に五十二名が出征した。 ・水落に、区裁判所が設置された。
一八七三	明治六	<ul style="list-style-type: none"> ・明治維新。 ・五か条の御誓文が発表された。 ・廃藩置県 ・福井藩ら六藩を、それぞれ県にした。 ・福井県に郵便取り扱い所を設けた。 ・学制がきめられた。 ・新橋・横浜間に鉄道が開通した。 ・江戸・大阪間に電信が開通。 ・県に捕え屯所(警察所)がおかれた。 ・太陽暦が実施された。 ・徴兵令が制定された。 ・地租改正の条例が出された。
一八七二	明治五	<ul style="list-style-type: none"> ・大野郵便役所が、七間布川源兵衛宅でひらかれた。

西暦	年号	国や県のできごと	大野のできごと
一八七九	明治十二	<ul style="list-style-type: none"> ・福井・敦賀・三国に電信が開通した。 ・明新中学をあらため、県立福井中学校が開設された。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大野郡役所が水落に設置された。
一八八一	明治十四	<ul style="list-style-type: none"> ・福井県制がしかれた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・水落に大野警察署が設置された。
一八八二	明治十五	<ul style="list-style-type: none"> ・長浜・敦賀間に鉄道が開通した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・面谷鉾山の鉾石を精錬するため、尾崎弥右衛門が大野精錬社をおこした。
一八八五	明治十八	<ul style="list-style-type: none"> ・福井羽二重精錬業を開始した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・花山峠(坂戸峠)を改修した。 ・町立明倫中学校が開校された。 ・柳逸社を建て、土井利忠の霊を祀った。 ・大野郡長の山田卓介の努力によって、穴馬街道の改修がおこなわれた。
一八八八	明治二十一	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村制が定められた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大野町に大火があり、のべ千数百戸が焼けた。 ・大野郡内に二町二十四村がおかれた。
一八八九	明治二十二	<ul style="list-style-type: none"> ・県内には一市(福井)九町百六十八村が生まれた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・面谷鉾山が三菱会社の経営にうつされた。
一八九〇	明治二十三	<ul style="list-style-type: none"> ・福井地方裁判所が設立された。 	<ul style="list-style-type: none"> ・米価が高く、人々の生活は非常に苦しかった。
一八九一	明治二十四	<ul style="list-style-type: none"> ・福井県政がしかれ、第一回の県会がひらかれた。 ・濃尾大地震で福井市などに被害がでた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・このころまでに、真名川、九頭竜川のおもな橋がかけられた。
一八九四	明治二十七	<ul style="list-style-type: none"> ・日清戦争がおきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大野郡から日清戦争に四百七十三名が出兵した。

一八九五	明治二十八	・福井県生系取引所が設立された。	・生系をつかって羽二重織りが始められた。
一八九六	明治二十九	・日本赤十字社福井支部が設立された。	
一八九七	明治三十	・福井・敦賀間に鉄道が開通した。	
		・全県下に大洪水があつた。	
		・林業巡回教師がおかれた。	
		・葉たばこ専売法が決められた。	
一八九八	明治三十一	・敦賀と鯖江に歩兵連隊が設置された。	
一八九九	明治三十二	・福井測候所が設立された。	
		・保安林制度が決められた。	
		・京都電燈会社が、足羽郡酒生村に宿布発電所をつくつた。	・大野町の横町より出火、のべ七百戸余りが焼けた。
一九〇一	明治三十四	・福井新聞が発刊された。	・福井中学校の分校として、大野に中学校がひらかれた。
一九〇二	明治三十五		・下荒井に舟橋がかけられた。
一九〇三	明治三十六	・福井市にはじめて電話が開通した。	・大野郡から日露戦争に二千二百六十五名が出兵した。
一九〇四	明治三十七	・日露戦争がおきた。	・福井―勝山間に乗合馬車が走つた。
一九〇九	明治四十二		・福井県立大野中学校が独立した。
一九一一	明治四十四		・尾崎弥右衛門(琴洞)の努力により、琴洞橋がかけられた。
一九一四	大正三	・第一次世界大戦がおきた。	・大野郡立実業女学校が開校された。
			・越前電気鉄道の新福井―大野口間が開通した。

西曆	年号	国や県のできごと	大野のできごと
一九一六	大正五	・ 県立工業試験場・人絹試験場を設立した。	・ 亀城銀行系の機業所が、大野共益織物信用購買販売組合をつくった。
一九一七	大正六		
一九一八	大正七	・ 福井で米騒動がおきた。	・ 悪性感冒が(スペインかぜ)が大流行した。
一九一九	大正八	・ 第一次世界大戦の講和条約が成立した。	・ 木炭同業組合をつくり、木炭の検査をはじめた。
一九二〇	大正九		・ 福井県立大野高等女学校が開かれた。
一九二一	大正十		・ 福井銀行大野支店ができた。
一九二二	大正十一	・ 国鉄小浜線が開通した。	・ 大野にはじめて自動車が出た。
一九二三	大正十二	・ 郡制が廃止された。	・ 西勝原第一発電所が完成した。
		・ 関東大震災がおきた。	・ 大七銀行が福井銀行に合併した。
一九二四	大正十三	・ 福井高等工業学校が開かれた。	・ 新しく大野織物信用購買販売組合がつくられた。
一九二五	大正十四	・ 日赤福井病院が設立された。	・ 百年来の大雪が降り、各地に雪害があった。
一九二七	昭和二	・ 福武電鉄が開通した。	
		・ 世界的な不況の波がおしよせた。	
一九二八	昭和三		・ 宝慶寺の本堂が完成した。
一九二九	昭和四		・ 鐘ヶ淵紡績会社が福井製糸会社を買いつけた。
一九三〇	昭和五	・ 三国電鉄が開通した。	・ 下庄村公民学校が開校した。

一九三一	昭和六	・満州事変がおきた。	
一九三二	昭和七	・福井人絹取引所が設立された。	
一九三三	昭和八	・福井放送局が開局した。	
一九三五	昭和十	・陸軍の特別大演習が県内でおこなわれた。	
一九三七	昭和十二	・日中戦争がおきた。	
一九三九	昭和十四	・敦賀が市制を実施した。	
一九四〇	昭和十五	・第二次世界大戦はじまった。	・第一回満蒙开拓青少年義勇軍を送った。
一九四一	昭和十六	・大政翼賛会がつくられた。	・興亜奉公日がきめられた。
一九四二	昭和十七	・全国に隣組制度ができた。	・大雪が降り、上庄村宝慶寺の志目木鉦山が全滅した。
一九四三	昭和十八	・主食の配給制度が行われた。	・食糧増産のため、富田村栗原野の開墾がはじまった。
一九四四	昭和十九	・国民学校制度がきめられた。	・下庄村立大野農学校が開校した。
		・太平洋戦争がはじまった。	・大野地方事務所が開設された。
		・衣料品・みそ・しょうゆ等が切符制になった。	・企業整備により、織物工場は軍需工場にかわった。
		・青年学校の軍事教練が強化された。	・福井県立大野農林学校が開校された。
		・学徒動員令が出た。	・大阪市城東国民学校の児童が、大野へ集団疎開をしてきた。
		・大都会の住民に強制疎開が命ぜられた。	

西暦	年号	国や県のできごと	大野のできごと
一九四五	昭和二十	<ul style="list-style-type: none"> 東京・大阪・名古屋などがひきつづき空襲を受けた。 敦賀市と福井市が空襲を受けた。 八月十五日太平洋戦争（第二次世界大戦）が終わった。 全国に餓死者が続出した。 	<ul style="list-style-type: none"> 農兵隊が六呂師が原を開墾した。
一九四六	昭和二十一	<ul style="list-style-type: none"> 新田に切りかえ、預金が封鎖された。 アメリカ教育使節団が視察にきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 大野―白鳥間に国鉄バスが開通した。 新制中学校が開校した。
一九四七	昭和二十二	<ul style="list-style-type: none"> 新憲法が施行された。 農地改革がおこなわれた。 新しく六・三制が実施された。 新しい警察制度が実施された。 福井電話局が新設された。 天皇が県内を巡幸された。 	<ul style="list-style-type: none"> 大野中学校・高等女学校・農林学校を合併して、福井県立大野高等学校が開校した。
一九四八	昭和二十三	<ul style="list-style-type: none"> 六月二十八日福井地方に大地震があった。 	
一九四九	昭和二十四	<ul style="list-style-type: none"> 七月二十八日福井地方に水害があった。 武生市が市制を実施した。 福井大学が発足した。 	
一九五〇	昭和二十五	<ul style="list-style-type: none"> 県立図書館が開設された。 	
一九五一	昭和二十六	<ul style="list-style-type: none"> サンフランシスコ平和条約調印。 	<ul style="list-style-type: none"> 下庄村が町制をしいた。

一九五二	昭和二十七	<ul style="list-style-type: none"> ・日米安全保障条約調印。 ・小浜市が市制を実施した。 ・日本電信電話公社が発足した。 ・福井復興博覧会が開かれた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大野信用金庫がつくられた。
一九五三	昭和二十八	<ul style="list-style-type: none"> ・テレビ放送が開始された。 	<ul style="list-style-type: none"> ・真名川総合開発事業がはじまった。
一九五四	昭和二十九	<ul style="list-style-type: none"> ・自治警察が廃止された。 	<ul style="list-style-type: none"> ・五条発電所が完成した。 ・七月一日二町六ヶ村が合併して、大野市が発足した。
一九五五	昭和三十	<ul style="list-style-type: none"> ・九月一日一町八ヶ村が合併して、勝山市が発足した。 ・鯖江市が市制を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・羽生・芦見・上味見・下味見村が大野郡からはなれ、足羽郡上宇坂・下宇坂村と合併して美山村が発足した。
一九五六	昭和三十一	<ul style="list-style-type: none"> ・白山と若狭湾が国定公園に指定された。 ・日ソ共同宣言。 	<ul style="list-style-type: none"> ・上穴馬村と下穴馬村が合併して、和泉村が発足した。
一九五八	昭和三十三	<ul style="list-style-type: none"> ・伊勢湾台風がおしよせた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・石徹白村の大部分が、岐阜県白鳥町に越県合併した。
一九五九	昭和三十四	<ul style="list-style-type: none"> ・第二室戸台風がおしよせた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市の青果市場が開設された。
一九六〇	昭和三十五	<ul style="list-style-type: none"> ・北陸トンネルが開通した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・越美北線の福井―勝原間が開通した。 (十二月十五日)
一九六一	昭和三十六	<ul style="list-style-type: none"> ・敦賀―福井間の北陸線の電化が完成した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・北美濃地震がおき、奥越に被害がでた。
一九六二	昭和三十七	<ul style="list-style-type: none"> ・全国植樹祭が丸岡町でひらかれた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市立の幼稚園がつくられた。

西暦	年号	国や県のできごと	大野のできごと
一九六三	昭和三十八	・白山国立公園が指定された。	・豪雪のため、交通が混乱し、被害がでた。
一九六四	昭和三十九	・三十八年豪雪があった。	・市内七つの農協が合併して、大野市農業協同組合をつくった。
		・東海道新幹線が開通した。	・塚原総合開拓事業がはじまった。
一九六五	昭和四十	・東京オリンピックが開かれた。	・電話の自動化が完成した。
		・日韓基本条約調印。	・四〇・九風水害により、西谷や若生子に大きな被害がでた。
		・四〇・九風水害がおきた。	・大野工業高等学校が開校した。
一九六六	昭和四十一		・土井利忠公の百年祭がおこなわれた。
一九六七	昭和四十二		・第二十三回国民体育大会が福井県でひらかれた。
一九六八	昭和四十三	・第二十三回国民体育大会が福井県でひらかれた。	・裁判所の建物が郷土歴史館として現在地に移築された。
一九七〇	昭和四十五		・現在の越前大野城が建設された。
一九七一	昭和四十六	・沖縄返還協定調印。	・『大野のあゆみ』が発刊された。
一九七二	昭和四十七	・日中共同声明調印。	・宝慶寺小学校と打波嵐分校が廃止された。
一九七三	昭和四十八	・石油ショックがおきた。	・西谷村を編入合併した。
			・庄林分校と阿難祖分校が廃止された。
			・有終・小山・下庄・乾側中学校を統廃合し、開成・陽明中学校が発足した。
			・松丸分校が廃止された。
			・越美北線勝原〜九頭竜湖間が開通した。
			・打波小学校が廃止された。

一九七四	昭和四十九	<ul style="list-style-type: none"> ・日中平和友好条約調印。 ・五十六年豪雪があった。
一九七五	昭和五十	
一九七六	昭和五十一	<ul style="list-style-type: none"> ・有終東小学校が開校した。 ・上水道の試験給水を開始した。 ・豪雪で陸上自衛隊が救援にきた。 ・上庄小学校木本分校と吉分校が廃止された。 ・市の花・木・鳥に「コブシ」「ケヤキ」「ウグイス」が制定された。 ・勝原小学校が廃止された。 ・歴史民俗資料館が開館した。 ・大野東高校が開校した。 ・大野高校が新庄に移転した。 ・大野が「水の郷百選」に選ばれた。 ・まちなか観光施設「平成大野屋・平蔵」がオープンした。
一九七八	昭和五十三	
一九七九	昭和五十四	
一九八一	昭和五十六	
一九八三	昭和五十八	
一九八四	昭和五十九	
一九八六	昭和六十一	
一九九一	平成三	<ul style="list-style-type: none"> ・阪神・淡路大震災
一九九三	平成五	
一九九五	平成六	
一九九六	平成八	
二〇〇〇	平成十二	

参 考 文 献

- | | | |
|------------------|-------------|--------|
| 『庶務要書』 | 大野郡阪谷村五箇村役場 | 一八九三 |
| 『福井縣大野郡案内』 | 福井縣大野郡教育會 | 一九〇八 |
| 『福井縣大野郡誌 上』 | 福井縣大野郡教育會 | 一九一〇 |
| 『福井縣大野郡誌 下』 | 福井縣大野郡教育會 | 一九一二 |
| 『大野紹介寫眞帖』 | 安田寫眞館 | 一九一二 |
| 『水本ふさ傳』 | 水本稚恵里子 | 一九三一 |
| 『大野のあゆみ』 | 大野市 | 一九六八 |
| 『西谷村誌』 | 福井縣大野郡西谷村 | 一九七〇 |
| 『福井縣纖維產業史』 | 福井縣纖維協會 | 一九七一 |
| 『大野市教育百年史』 | 大野市教育委員會 | 一九七四 |
| 『和泉村史』 | 和泉村 | 一九七八 |
| 『大野市史 社寺文書編』 | 大野市 | 一九七八 |
| 『大野市史 諸家文書編 一』 | 大野市 | 一九八〇 |
| 『大野市史 諸家文書編 二』 | 大野市 | 一九八一 |
| 『内閣文庫所藏史籍叢刊及古書院』 | 大野市 | 一九八二 |
| 『大野市統計書』 | 大野市 | 一九八二年度 |
| 『城下町大野を歩く』 | 河原哲郎・坂田玉子 | 一九九四年度 |
| 『大野市史 藩政資料編 一』 | 大野市 | 一九八三 |
| 『福井県土木史』 | 福井縣建設技術協會 | 一九八三 |
| | | 一九八四 |

- 『市制三十周年記念 仏教美術展』 大野市教育委員会 一九八四
- 『大野市勢要覧』 大野市 一九八四
- 『市制おのおの 縮刷版』 大野市 一九八四
- 『大野市史 藩政資料編 二』 大野市 一九八四
- 『大野織物業界のあゆみ』 大野市 一九八五
- 『大野市史 史料総括編』 大野市 一九八五
- 『第二次大野市総合計画』 大野市 一九八六
- 『大野高校八十年史』 福井県立大野高等学校 一九八六
- 『金森六代記』 高橋紀比古 一九八六
- 『大野市史 図録文化財編』 大野市 一九八七
- 『福井県宝慶寺 月見の像と道元の筆跡』 大野市 一九八八
- 〔『佛教藝術』一八一号 佛教藝術学会編 毎日新聞社〕 岩井孝樹 一九八八
- 『歴史と史跡 大野』 河原哲郎・大野市 一九八八
- 〔道元の入越と白山修験〕 岩井孝樹 一九八八
- 〔『大法輪』五十六卷十一号 大法輪閣出版〕 大野市 一九九一
- 『大野市史 地区編』 大野市 一九九一
- 『特別展 道元とゆかりの高僧―その肖像と書』 大野市歴史民俗資料館 一九九一
- 『福井県史 資料編7 中・近世五』 福井県 一九九二
- 『福井県史 通史編一 原始・古代』 福井県 一九九三
- 『大野市の農林業』 編集 大野市・北陸農政局福井統計情報事務所福井出張所 一九九四
- 『福井県史 通史編二 中世』 福井県 一九九四
- 『福井県史 通史編 近世一』 大野市 一九九四
- 『福井県史 通史編 近現代一』 福井県 一九九四

- 『三〇周年』
 『道元の鎌倉行化』
 (『大法輪』六十二卷十二号 大法輪閣出版)
 『大野市史 用留編』 大野市 一九九五
 『大野市農林業等活性化基盤整備計画』 大野市 一九九六
 『福井県史 通史編 近世二』 福井県 一九九六
 『福井県史 通史編 近現代二』 福井県 一九九六
 『塚原のあゆみ』 大野市塚原区 一九九六
 『奥越纖維産地活性化の基本方向策定調査報告書』 財団法人奥越地域地場産業振興センター 一九九七
 『ひと味ちがう 奥越のさといも 酒米』 福井県農林統計協会 一九九七
 『総合日本史図表』 第一学習社 一九九七
 『奥越史料 第二十四号』 大野市教育委員会・大野市文化財保護委員会 一九九七
 『福井県史 年表』 福井県 一九九八
 『図説 福井県史』 福井県 一九九八
 『大野市史 新聞資料編』 大野市 二〇〇〇
 『大野市勢要覧』 大野市 二〇〇一
 『大野市史 自然編』 大野市 二〇〇一
 『福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館 要覧』 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館 二〇〇一
 『奥越史料 第三十号』 大野市教育委員会・大野市文化財保護審議会 二〇〇二
 『食・農業・農村ビジョン』 大野市 二〇〇三
 『京福電気鉄道越前線写真帳』 京福電気鉄道株式会社 二〇〇三
 『細密工芸の美 岡島コレクション』 岡島美術財団 二〇〇三
 『京福電鉄 八十八年回顧録 越前線写真帖』 京福電気鉄道株式会社 二〇〇三

J A 大野市
 岩井孝樹
 一九九五
 一九九五

編集にあたって

本年、大野市が誕生してから、はや五十周年を迎えることになりました。この記念すべき年にあたり、事業の一環として、新しい『大野のあゆみ』を発刊したらどうかという意見が持ちあがり、昨年三月下旬から準備をすすめてきました。

まず、昭和四十三年に発刊された『大野のあゆみ』の内容について検討することから始めました。発刊以降新たな資料の発見があったり、記述の適性を欠く部分が見られたり、専門用語の使用について相違があることなどの他に、既刊の『大野のあゆみ』では歴史書でありながら民俗の内容が多く取り上げられているなど、多くの問題点が挙げられました。

その結果、基本となる構成はそのままとし、十分内容を精査するとともに、次の項目について考慮することとしました。

・ 民俗関係については、今後出版される市史民俗編にゆだねる。したがって、既刊の「むかしはなしと伝説」「郷土のたから」「年中行事」「真名姫伝説」などの項目は削除する。

・ 「郷土の人物」は児童向けに副読本として既刊されているので、基本的に削除する。ただし、新しい『大野のあゆみ』の内容上必要であれば掲載する。

・既刊の「美しい自然」の項目は、現在から見て一貫性がないので削除する。
・郷土の歴史として必要と認められる内容を多くし、新たに掲載する。
したがって、新しい『大野のあゆみ』は改訂版とし、大野の歴史に關係する事柄に重点を置いて編集することにしました。

改訂版の基本方針として、

- 1、小中学校の児童や生徒が授業に副読本として十分活用できる内容とし、難しい漢字、固有名詞、専門用語などは読みやすいようルビを付ける。
- 2、日本の歴史を背景にして郷土の歴史を表面に出すよう、「こんなできごと」「あんなできごと」はどのように書かれているのか手軽に読んでもらえるよう、記述に十分配慮する。
- 3、歴史上の大きな出来事を専門的にかつ詳細に記述するのではなく、古代から現代まで郷土の歴史の流れを正しく認識し、史料に基づいて記述する。
- 4、和泉村の歴史についても、大野市と關係あったことから掲載する。
- 5、巻頭にカラー写真を入れる。また、巻末に年表のほか大野市・和泉村指定の文化財目録・村々の石高・藩領のうつりかわりなどの資料を収載する。
- 6、改訂版であり、時間が限られていることから、一部分的ではあるが既刊の『大野のあゆみ』の記述を補筆するという形式をとる。

最後に、執筆者のみなさんには、不得意な分野を受け持っていたいただきご苦勞をおかけしましたが、正確に史実に基づいて記述していただき、ありがとうございます。編集会議も先生方のご都合で審議時間に制約を受けながらも、歴史観の不統一、記述の重複、時代考証などについて、密度の濃い議論も多くなされ、最後は公正な判断で執筆していただき感謝申し上げます。

また、この改訂版の発刊に際し、市教育委員会文化振興室の佐々木主査、齋藤学芸員には、原稿の整理からデータ入力、レイアウト、製本まで責任を持って完成してくださったことに対し、厚くお礼申し上げます。

編集委員一同、内容について何度も校正を繰り返し鋭意努力し精査いたしました。が、不文、不備な点もあろうかと存じます。この点批評と暖かいご指導を賜りますようお願いいたします。市民の皆さんには、郷土の歴史に興味や関心を持って一読くださいますならば、その意義はきわめて大きく、大野市発展の素材ともなるうかと存じ希望してやみません。

平成十六年七月

『大野のあゆみ』改訂版編集委員会 委員長 小倉長良

『大野のあゆみ』改訂版編集委員（五十音順）

委員長

小倉 長良（文化財保護審議会 会長）

石田 忠久（有終東小学校 教諭）

岩井 孝樹（文化財保護審議会 委員）

加藤 守男（文化財保護審議会 委員）

金井 和信（陽明中学校 教諭）

川田 信行（有終西小学校 教諭）

齊藤 孝実（学校教育課 指導主事）

齋藤 知美（文化振興室 学芸員）

高村 光昭（陽明中学校 教諭）

田中 孝志（歴史民俗資料館 嘱託）

能登雄二郎（六呂師小学校 校長）

事務局

大野市教育委員会

教育長 中森 繁夫

局長 前 幸雄

文化振興室

室長 松田 輝治

係長 坂井 八千代

主査 佐々木 伸治

主査 養老 伸介

学芸員 齋藤 知美

嘱託 亀谷 聡美

大野のあゆみ改訂版

平成十六年六月 印刷
平成十六年七月 発行

編集者 『大野のあゆみ』改訂版編集委員会

大野市教育委員会

発行者 大野市

印刷 大野市陽明町二丁目四〇一

株式会社 松浦印刷所

《表紙デザインについて》

私たちの生活は、豊かな自然の中で連綿と
培われてきた先人たちの営みのうえに成り立
っています。

自然の緑を背景に各時代を代表するモチ
ーフを並べ、歴史の流れを表しました。